

Q 今後、小・中学校の建て替えやその他の公共施設の老朽化による維持管理がかかるなか、総合文化センターを建てても、財政的に大丈夫なのですか？

A 田尻町には空港関連の安定した税収により、90億円を超える預金があります。
今後、関空の利用回復が見込まれ、税収の伸びが期待される中、これらの預金を有効的・計画的に活用し、補助金などを積極的に確保していくことで、将来への負担を最大限少なくすることも考えていますので、財政的に大丈夫です。



Q 文化は、なぜ、大切なのですか？

A 文化は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものであり、豊かな人間性を育みます。
また、文化は、人と人とを結び付け、相互に理解し、尊重し合う環境をつくりだします。人間が、協働し、共生する土台となることから、生活になくはないとても大切なものです。



お問い合わせ

田尻町教育委員会

電話:072-447-5108 FAX:072-466-5095

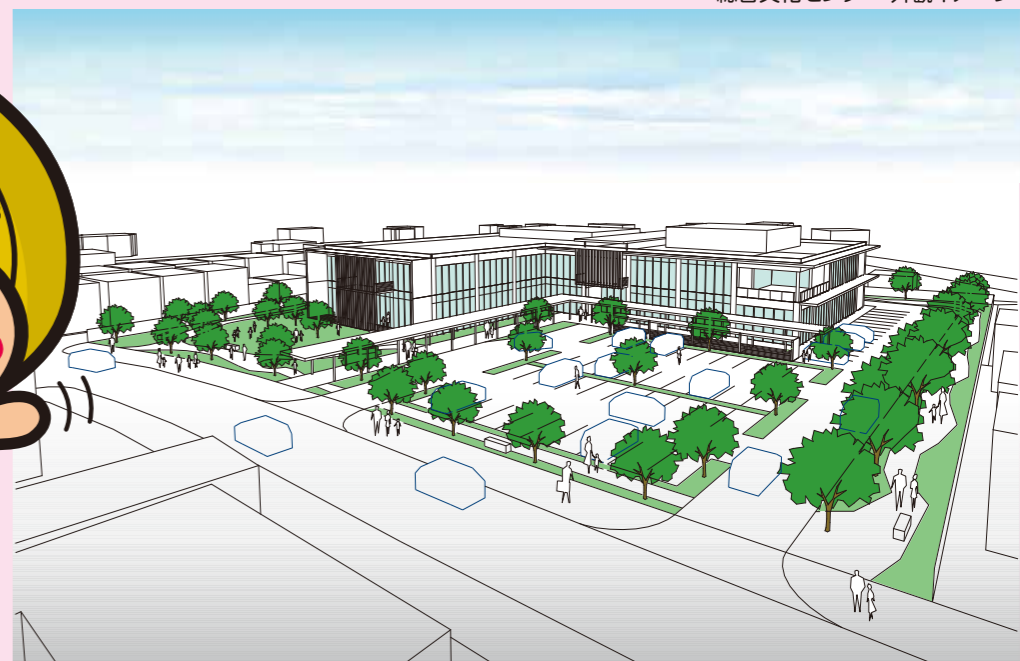


総合文化センターに関する質問にお答えします!



田尻町では、駅上広場に各世代がふれあい、ともに学び文化を育む総合文化センターの整備を進めています。町民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

総合文化センター 外観イメージ



Q 総合文化センター建設は、なぜ、必要ですか？

A 公民館は老朽化が著しく、改善を望むお声をたくさん頂いておりました。そこで、これからの時代に見合った生涯学習などを展開するため、町民の皆さまのご意見を頂きながら現状の課題を把握して必要な部屋やその広さを検討しました。
その結果、子どもから高齢者まで各世代が集い、共に学び、文化に触れ、田尻町の文化を発信するためには、公民館の単なるリニューアルではなく、現状の課題を克服しつつ、新たな機能を強化し、新しいサービスの提供や発信などができるよう、複合的機能を有する総合文化センターを整備することが必要であるとの結論に至りました。



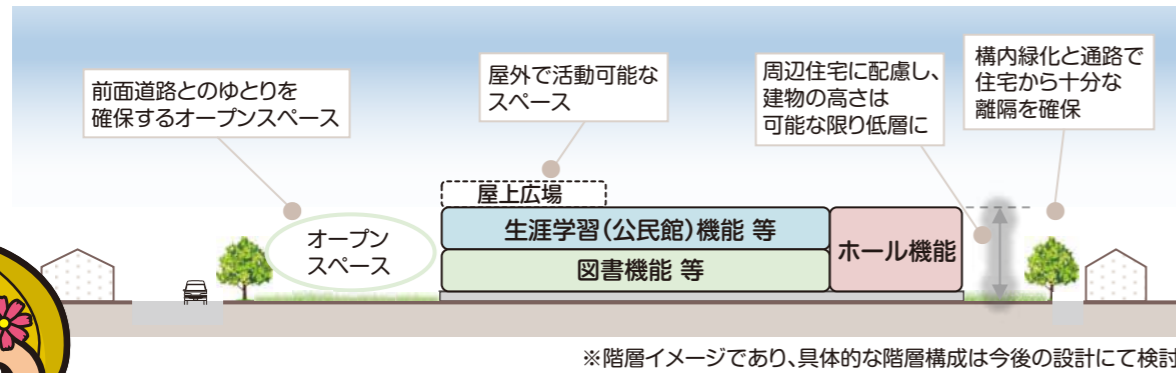
住民ワークショップの様子

Q₂

なぜ、駅上広場に建設するのですか？

A₂

総合文化センターは、敷地規模、周辺の住環境や道路の状況など、様々な角度から検討した結果、敷地が広く、津波や高潮の浸水区域外であり、広い道路に面し、駅に近く、多くの人々が利用しやすい、駅上広場に建てる案が最適であるとして、整備の方向性を決定しました。



Q₃

現在、避難場所に指定されている駅上広場に、総合文化センターを建設すると、防災上の問題があるのではないのでしょうか？

A₃

駅上広場は地震や津波災害のときに避難する指定緊急避難場所になっています。総合文化センターを建設した場合は、建物内部や屋外の空地にも避難でき、現状の駅上広場より多くの人たちが避難できるようになると考えています。

また、一時的な避難においても雨風や暑さ寒さをしのげ、飲料水、食糧などの備蓄品も備えられ防災対応力はより強化されます。



Q₄

新たに総合文化センターを建てなくても、公民館やふれ愛センターを文化センターの機能として活用できるのではないのでしょうか？

A₄

公民館は、敷地が狭いため総合文化センターの機能を満足に整備することが困難です。また、海、川、水門の近くに立地し、津波浸水区域内にあることから、防災上の懸念があります。

ふれ愛センターは、健康と福祉の拠点であり、今後高まる子育て支援のニーズに対応する予定ですので、文化センターの機能を受け持つ余裕はありません。

生涯学習を効率よく、効果的に展開するためには、機能を分散させるのではなく、機能を集中させた総合文化センターを整備することが最適であると考えます。

Q₅

総合文化センターは、公民館と比べてどういったことがよくなるのでしょうか？

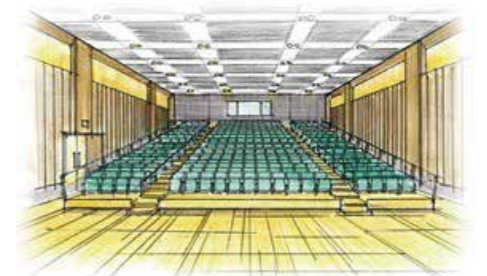
A₅

総合文化センターは、公民館の課題を解消し、充実させた各機能を複合化することにより、多様な活動や交流の創出、学びの機会・場所の提供を図っていく拠点となります。駅に近く通勤・通学する人など多くの人々が利用しやすく、誰でも気軽に立ち寄りたくなり、ゆったりと快適に過ごすことができ、文化芸術に触れ、参加したくなるような施設になります。

また、しっかりと学習したい人や本格的な文化芸術を楽しみたい人、地域の伝統を継承したい人の要望にも応えられる施設になります。

【ホール機能】

- 多用途に利用でき、移動観覧席を採用するなど、使い勝手を良くし、様々な活動の発表の場や交流の拠点となるよう整備します。
- よりたくさんの方々が多彩な文化芸術に気軽に触れ、参加できるような機会が増えます。



多目的ホールイメージ

【図書機能】

- 蔵書数を12,000冊から50,000冊に拡大します。
- 図書機能は1階の利用しやすい場所を中心に配置し、様々な利用者を想定した閲覧スペースを備えます。
- 親子や友達との利用を想定した、おしゃべりを許容する読み聞かせスペースや児童や学生などの自習スペースを確保します。
- 子どもから高齢者までの幅広い世代を含めて、これまで図書に触れてこなかった方も図書に親しめるような事業展開が図れ、誰もが利用しやすく、ゆとりと滞在できるようになります。



書架の一部を利用した自習室イメージ



開放的な閲覧スペースイメージ

【生涯学習機能】

- 講座や会議、研修などの多目的室や創作活動が行える創作室を整備します。
- 音楽スタジオ、練習スタジオ、ッキングスタジオを設置します。
- 軽運動などの際に利用者が適した服装に着替えることができる更衣室やシャワーユニットを設置し、災害時の利用にも活用します。
- サークル活動での作品の展示スペースを整備します。

【交流・情報発信機能】

- 誰もが気軽に利用でき、交流の場づくりのため、入りやすく集まりやすいメインロビーやカフェ・飲食スペースや活動団体の取組みの情報を発信・共有できるようなスペースを設けます。



カフェ・飲食スペースイメージ



情報発信スペースイメージ

【防災関係】

- 指定避難所を前提としたスペースを確保します。
- 防災備蓄用収納スペースの確保や避難者受け入れ時の必要な物資を備蓄します。

